

# 岩手県職労

月2回刊=1692号  
2026年3月15日 発行  
発行日 毎月15日30日  
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合 印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円  
組合員購読料は組合費に含む

## 2・28臨時大会 通年闘争の起点となる2026春闘方針確立

県職労は、2月28日に県職連合第39回・県職労第135回臨時大会を開催し、代議員の発言により方針を補強のうえ、人員確保・賃金改善・長時間労働解消・危機事案対応改善等を柱とする2026春闘方針を確立し、3月9日に人事課総括課長交渉を行うこととした。また、春闘、人事院勧告・県人事委員会勧告、確定闘争に向けて重点的に取り組む活動のため、昨年10月18日の第124回中央委員会において職場討議に付していた2026年度特別闘争資金の徴収についても議論したうえで、承認された。



▲県職連合第39回・県職労第135回臨時大会の様子

開会にあたり、小田嶋中央執行委員長は「今回の鳥インフルエンザ対応に従事された組合員の皆様、心から慰労する。職員の大変な思いが前提の人員配置・定数の設定はいかなるものか。日常からの人員要求と併せて闘争を強化したい」「衆議院総選挙で、自民党の得票は総得票数では全体の半分にも満たず、政策に対する信任ではないことを認識し、暴走を許さない、政治の右傾化を許さない取り組みを引き続き展開しなければならぬ」「昨秋の取り組みの到達点を総括しながら本日確認する春闘方針が、1年の闘争サイクルの最初の要求書提出となる。通年闘争としての要求開始に向け、より職場の声が詰まった取り組みとしていくため、多くの代議員の発言で運動方針補強をお願いしたい」とあいさつした。

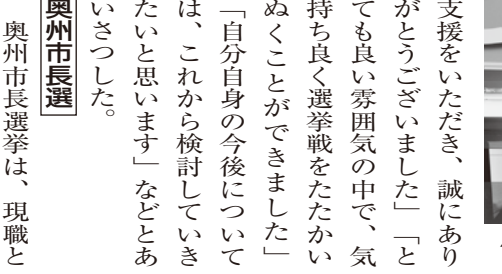


▲選挙結果判明後、支持者にあいさつする今野よしふみ

### 3・8奥州市議選 今野よしふみ 当選ならず 奥州市長選 とうこん浩 初当選

奥州市議会議員選挙は、定数28人に対して34人が立候補する大激戦となった。県職労は第3回拡大中央闘争委員会にて「今野よしふみ」の県職労組織内候補としての擁立を決定し、支持拡大を進めてきた。今回初めて選挙に挑戦した「今野よしふみ」は、「みんながいつもと変わらない暮らしを」というスローガンで、選挙戦をたたかいた。

「今野よしふみ」は、結果的に901票を獲得したが、得票順位は32位であり、当選には至らなかった。事務所における開票見守りにおいて「今野よしふみ」は「多くの皆様から御



▲3月1日江刺第一声で政策を訴えるとうこん浩

しのできる地域に」を掲げ、多くの労働組合と地元・江刺梁川の住民が連携しながら支持拡大に取り組み、地元にてベテラン現職候補者がいる厳しい環境に置かれながらも、選挙戦をたたかいた。

「自分自身の今後については、これから検討していきたいと思っております」などあいさつした。

新人の一騎打ちとなった。県職労は、新人の「とうこん浩」について、これまで連合推薦県議として生活者視点での政策に取り組んできたこと等の実績は、県職労の運動方針に照らしても評価できるものと判断して推薦を決定し、「今野よしふみ」と連携して支持拡大に取り組んだ。

御礼  
今回、組合員の皆様から多大なる御支援をいただきました。深く感謝申し上げます。

結果的に、29584票を獲得し、初当選を果たした。

来賓として出席した佐藤秀作自治労県本部書記長は「鳥インフルエンザ対応について、今回は委託も導入された」と聞き及んでいる。防疫等作業手当の大幅改善も含め、要求の成果で

報告の部では、通常の間経過報告に加え、県職労組織内の野中靖志盛岡市議会議員から政治活動報告が行われ、盛岡市における職員定数条例をめぐる課題、職員の健康管理をめぐる課題などについて発言し、2026年度当初予算案の審議について、経営が厳しい中小企業や生活困窮者への支援の充実を求める観点で臨む姿勢を示した。また、先の衆議院議員総選挙の取り組みについて組合員への感謝を述べるとともに、選挙後の国政課題について述べた。報告の部では代議員4人から発言があった。

議事の部では、2026春闘方針をはじめとする当面の闘争方針に加え、これに伴う2025年度更正予算案、2026年度暫定予算案を審議した。

併せて、2026年度特別闘争資金の徴収に関し、自治労岩手県本部第61回定期大会の決定を受け、昨年10月18日の第124回中央委員会において承認された職場討議を踏まえ、20266人勤期闘争、20266確定闘争及び2027春闘生

議事の部では、全議案を一括して審議し、代議員9人から発言があった。その後、闘争宣言採択、スローガン確認を経たうえで、2025年度末で退任する役員、2026年度に新たに就任する役員からのあいさつがあった。そして、締めくくりに小田嶋中央執行委員長の団結ガンバローで2026春闘勝利に向けた意思統一を行った。

3月に入り、ようやく春めいてきた。年度末も終盤となり、業務も更に多忙を極めていることと思う。疲労感や倦怠感を感じる人もいるかもしれないが、それは忙し



▲総括答弁をする小田嶋中央執行委員長(中央)

春は寒暖差が大きいことに加え、生活が大きく変化する季節であることがその理由とされている。春バテの主な症状は「疲労感」「倦怠感」「イライラ」「不眠」など。これらの症状は主に自律神経が関係するとされている。自律神経は体の重要な器官の働きを調節し、外部の刺激に適切して健康な状態を保つ神経で、活動的な時に活発化する交感神経とリラックスしている時に活発化する副交感神経がある。相反するこれらの神経が交互に働くことで体を調節するが、前述したとおり春は外的環境の変化が多いことから、自律神経がバランスを崩しやすいため、それが春バテにつながるとされている。▼新年度は職場環境や職場が変わる人も多

いと思う。春バテだと思っただけです。深く感謝申し上げます。

御礼  
今回、組合員の皆様から多大なる御支援をいただきました。深く感謝申し上げます。

3月に入り、ようやく春めいてきた。年度末も終盤となり、業務も更に多忙を極めていることと思う。疲労感や倦怠感を感じる人もいるかもしれないが、それは忙し

# 代議員の主な発言

## 県職連合第39回・ 県職労第135回臨時大会

### 【報告の部】

・現業評議会では、運転技士と技能員の退職補充を訴えた結果、今は新年度の着任を待つのみとなった。増員を求める声も多かったが、今年度は所属長に対して声を上げるよう訴えて、所属から主管課を動かす取り組みを展開した。現在、給与改善に向けた課題を洗い出し、新年度に要求する準備を進めている。

・県税部門の組織再編で、「県税センター」の設置と、広域振興局本局への課税部門の集約が行われ、その他は「駐在」となる。人材育成のため県税プロパー職員の確保が必要だが、再編で異動先が限定される中で、

・現業職の新採用が決まった。技術の継承も必要だが、組合に加入してもらい、組合の必要人員を割り出して、交渉を通じて確保するなど、一つ一つ勝ち取っていききたい。

・総合案内員について、みんなであつたが、廃職を覆せなかった。ただ、我々の力不足とは思わない。全庁舎で廃職を決められる雰囲気の中、3庁舎で雇用を守れた。佐藤ケイ子県議、小西和子県議が議会で取り上げ、心強く感じた。

・書記局体制の集約には反対。書記がないと支部では何もできない。総合案内員に対する姿勢と矛盾する。財務会計システムが忙しい時期にも午後5時15分まで使えなくなる。夜にも使えるようにしてほしい。

・時間外に防災携帯電話を持ち歩き、何かあったらすぐ戻らなければならぬ。その際の労働条件がいまいになつていない。震災から間もなく15年を迎える中、見つめ直してほしい。

・普及職場では、新年度に入る前に親睦会で分会役員



▲代議員からは様々な意見が出された



▲時間外対応時の労働条件について発言する大槻代議員



▲答弁する藤村書記長

合活動の継承も継続的にしていかなければならない。

### 【議事の部】

・総合案内員について、みんなであつたが、廃職を覆せなかった。ただ、我々の力不足とは思わない。全庁舎で廃職を決められる雰囲気の中、3庁舎で雇用を守れた。佐藤ケイ子県議、小西和子県議が議会で取り上げ、心強く感じた。

・書記局体制の集約には反対。書記がないと支部では何もできない。総合案内員に対する姿勢と矛盾する。財務会計システムが忙しい時期にも午後5時15分まで使えなくなる。夜にも使えるようにしてほしい。

・時間外に防災携帯電話を持ち歩き、何かあったらすぐ戻らなければならぬ。その際の労働条件がいまいになつていない。震災から間もなく15年を迎える中、見つめ直してほしい。

・普及職場では、新年度に入る前に親睦会で分会役員

## 同世代の仲間づくりを 推進しよう!

4月より各所属に新採用職員が配属される。各支部では2月24日から3月27日

まで新採用職員の加入促進に向けた対策会議等の取組みを既に行っている。

が、次のとおり加入促進に向けた本部の方針を提起する。【重点①加入促進体制構築】

支部加入促進対策会議において戦略的な取り組みを共有する。声掛けの中心は分会とし、書記は日頃の活動のサポート役とする。

2〜3月は組合員自身が行う。県職労の取り組みに自信を持つる学習強化期間とし、3月からは新採用者配属の分会での声掛けを担う組合員の役割分担や分会組合員の配置状況を踏まえ、支部の関わりを整理する。

若手組合員の役割分担も併せて行うが、分会にいない場合は支部全体で対応する。【重点②青婦部活動活性化】

新採用者・未加入者に対して、同年代の仲間づくりが必要となってくる。仲間づくりが楽しく、今後の県職員生活でも活かせるとの実感を持たせることが大事であるため、支部の青年婦人部組合員が主体となり、日頃の活動を進めていく。

【重点③支部別対策の強化】

分会主体の取り組みを基本としつつ、組合役員が主体的にサポートを進める。遠隔分会については、組合員の状況を踏まえ、支部として個別対応を進める。具体的には「支部の役員体制を踏まえ、本部も関与して取り組みを進める重点支

| 時期                      | 実施機関                | 内容   |
|-------------------------|---------------------|--|
| 4月1日<br>(着任時)           | 分会<br>(支部)          | 分会(支部)組合員による声掛け<br>※支部歓迎昼食会案内文及び「くみあいて何ですか?」の手渡し   |
| 4月1日～<br>研修前日迄          | 支部<br>(分会)          | 「歓迎昼食会」の開催<br>※組合・共済制度等の概要を簡単に説明<br>加入届の回収   |
| 研修終了後<br>～1か月に<br>1回ペース | 本部青婦部<br>支部<br>(分会) | 新採用ニュースの発行<br>新採用ニュースを活用した声掛けや学習会の開催   |
| 研修終了後<br>～随時            | 支部<br>(分会)<br>青婦部   | 各種説明会の開催<br>・お仕事Q&Aや新採用ニュースを活用し、<br>新採用者のニーズにあわせた内容の学習会<br>等開催<br>・セット共済オルグについては、可能な限り<br>5月中(民間保険の勧誘が始まる前)に開催 |

の効果をどう周知するのか。全国的には賃下げなどマイナスイメージもあるものではない。ことをぜひ伝えてほしい。

・支部独自交渉に本部はどのように関わっているのか。また、評協議会の意見交換の結果を受けて、主管室課交渉はどのように進めているのか。

・本部役員は、4役・専従者が目立つが、中央執行委員は他にもいるはずである。重みをもって支部の支援をしてほしい。

・支部の定期大会を昨年度から対面で開催している。熱をもって伝えることが大事であり、組合はつながりあいだと思っている。積算根拠を示してほしい。

・加入促進の本部提起で、新採用へのアプローチは議論しているが、加入の取り組みをする側がどうすればよいかわからなくなっている。取り組みをする側の学習に力を入れてほしい。

・労働組合の原点に立ち返り、本部には当局との交渉をがんばってもらうが、支部役員だけではなく、みんなで動くようにしていく必要がある。

## 新年号クイズ当選者発表

県職労新年号クイズ応募者の抽選会が2月28日開催の県職労第135回臨時大会で行われた。

当選者は次のとおり。特別賞 (清荘宿禰 20,000円分) 藤澤 潤一 (宮城 宮城支会)

支部特産品プレゼント 本部賞 (青森県 青森県支会) 富田 典子 (北上市 岩手県支会)

花巻支部賞 (食鳥の女王 水口口鳥)

吉田 直矢 (県庁支部 建設技術振興課分会)

胆江支部賞 (新米ひとめぼれ) 口岩 喜幸 (盛岡支部 岩手県センター分会)

吉田 直矢 (県庁支部 建設技術振興課分会)

胆江支部賞 (新米ひとめぼれ) 口岩 喜幸 (盛岡支部 岩手県センター分会)

吉田 直矢 (県庁支部 建設技術振興課分会)

胆江支部賞 (新米ひとめぼれ) 口岩 喜幸 (盛岡支部 岩手県センター分会)

吉田 直矢 (県庁支部 建設技術振興課分会)

胆江支部賞 (新米ひとめぼれ) 口岩 喜幸 (盛岡支部 岩手県センター分会)

吉田 直矢 (県庁支部 建設技術振興課分会)

胆江支部賞 (新米ひとめぼれ) 口岩 喜幸 (盛岡支部 岩手県センター分会)

吉田 直矢 (県庁支部 建設技術振興課分会)